

新年号

酪農とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部部长挨拶、女性会会长挨拶
- 5～6 ページ 東西南北（各支所）
- 7 ページ 部課だより（生乳受託課）
- 8 ページ 部課だより（業務部）
理事会だより、お知らせ、市場成績



あけましておめでとーなさいませう。
本年もよろしく願いたします。

MILK JAPAN



新年の挨拶

酪農とちぎ農業協同組合

代表理事組合長 白井 勉



新年明けましておめでとうございます。
います。

組合員の皆様におかれましては、輝かしい新春をご家族お揃いでお迎えの事とお慶び申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。
旧年中は、幣組合同事業全般に對しまして、特段のご支援ご協力を賜りました事に心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ると自然災害が顕著にあらわれた年となりました。令和元年7月の梅雨明け後の猛暑、例年にも増して日本列島に襲来した台風や豪雨などにより関東地域においても農作物被害に留まらず、長期間にわたる停電に陥り、酪農経営も多大な影響を受

けました。

改めて、被害にあわれた酪農・乳業関係者の皆様に御見舞い申し上げます。一日も早い復旧を願うものがあります。

国際情勢においては、いまだに着地点が見えない米中貿易摩擦が国際貿易に様々な影響を及ぼしており飼料原料価格動向まで左右しております。日米関係においても、農業全体への影響が懸念されている「日米貿易協定」が12月に承認され1月より発効されることとなりました。TPP・EUとのEPAに続く大型協定の発効により日本農業はかつてない自由化に足を踏み入れました。この協定により最も影響が懸念されるのは牛肉・乳製品であり心配されるところです。政府・与党に対し万全なる国内対策を期待するところです。

国内においては、10月の消費税増税の影響がジワリと出てきていることから、事業規模二十六兆円の経済対策を実施することから、景気の下支えが期待されます。

酪農においては、初妊牛価格や初生牛価格等が一時期の高値から

下落傾向にあります。飼料価格は比較的安定した情勢にあります。

このような情勢の中、私は、組合長就任以来、日々組合員の誰もが酪農を安心して持続的に経営できる組合作りのため、組合員目線に立ち対話を重視し色々な声を聞きながら組合員第一の運営をモットーに、第五期中期構想を着実に実行すること、酪農生産基盤の強化に向けて、役員一丸となり対応して参りました。

新たな「加工原料乳生産者補給金制度」が開始され2年目となりましたが、全国的には色々な問題が出てきており一部に混乱はあるようですが、幸いなことに組合においては全組合員との委託契約を結ぶことができ順調に事業を進めることができました。これも偏に組合員の皆様の組合に対する期待の表れであると思います。

さて、組合員の皆様が最も期待している乳価は昨年末に「飲用乳価等」が据え置きで大手乳業との間で決定する方向となったことは、現在の酪農・乳業情勢を俯瞰すればやむを得ないと考えます。

都府県においては生産基盤の弱体化による生乳生産の確保が懸念されており、是非、クラスタ事業等を有効に活用し無理のない増産を期待するところであり、今後も、国内だけでなく国外においても目まぐるしい情勢変化も懸念されることから、副産

物価格に頼ることのない経営を目指して、先を見越した経営改善を年の始めにあたり家族全員で話し合い取り組んで頂ければと思います。

組合では、国内外の情勢や酪農乳業情勢の変化に的確かつ柔軟に対応しながら、喫緊の課題でもある酪農生産基盤の強化に向け、最終年度となる第五期中期構想を進めてまいります。この中期構想では、「酪農生産基盤の強化」を基本方針に据えながら「酪農家の所得を向上させる」「酪農家個々に最適な酪農技術を提供する」「組合員と職員がともに幸せを感じられる組織を目指す」の3つの目標を実現すべく進めてまいります。着実に諸課題を解決し前に進むことで、組合員の皆様が将来に希望が描けるよう運営して参りますので、より一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

皆様方の協同精神や組合に結集することが非常に大事であり、本州一の規模を誇る酪農組合の組織力を活用して、私たちが等しく直面する様々な課題に力強く立ち向かっていく決意を新年にあたり新たにしていきたいと思います。
年の始めにあたり、所信を述べるとともに、組合員、役員、関係者の皆様とともに、一層の酪農の発展と、本年が皆様にとり良い年であることを祈念し新年のご挨拶といたします。



新年知事あいさつ

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとうございます。

知事4期目の任期の仕上げの年となりました。私は、就任以来、現場主義を徹底するとともに、県民中心・市町村重視を基本として県政を進めて参りました。今後とも、県民や市町等の声に真摯に耳を傾け、県民にとって何が最善かを考え、前例にとらわれることなく、県政が抱える課題の解決にス

ピード感を持って取り組んで参ります。

さて、昨年は令和元年台風第19号に伴う記録的な豪雨により、県内でも尊い人命が失われたほか、畜産においては、牛舎への浸水、土砂流入や飼料の流出等の甚大な被害が発生しました。一日も早い被災者の生活の安定と被災地の復旧・復興のために、国や市町をはじめ関係機関と緊密に連携し、生活や生業の再建を全力で支援して参ります。

現在、本県が目指す将来像「人も地域も真に輝く魅力あふれる元気な『とちぎ』」の実現に向け、来年度に計画期間の最終年度とな

る栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン」の総仕上げを行うとともに、人口減少・高齢化、気候変動などに起因する諸課題に対応するため、中長期的な展望に立って次期プランの策定を進めております。

また、今年3月に策定する栃木県版まち・ひと・しごと創生総合戦略「とちぎ創生1.5戦略」に続く次期戦略では、これまでの取組の成果等を踏まえて施策の改善・強化を図るとともに、新たな視点に基づく施策を推進して、人口減少問題の克服と地域の活力の維持に努めて参ります。

農業分野においては、TPP11や日米貿易協定などの国際化の進展など、情勢が大きく変化する中、本県農業を持続的に発展させていくためには、本県の持つ強みを最大限に生かしながら、競争力の高い農業を実現していくことが必要であると考えております。

特に酪農については、畜産クラスター事業や畜産公共事業等を活用し、飼料基盤や畜舎の整備、ロボットAI等先進技術の導入を支援するとともに、担い手の確保・育成対策を進め、生乳生産量全国第2位の本県酪農のさらなる発展を目指して参ります。

県民の皆様が未来に希望を抱き、ふるさとに誇りを持てることを創るため全身全霊で取り組んで参りますので、一層の御理解と御支援をお願いいたします。

本年が酪農とちぎ農業協同組合の皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



新年の挨拶

青年部部长 山本 訓



新年明けましておめでとうございます。令和2年の初春を迎える事が出来て大変うれしく思います。日頃より部員のみなさまには青年部活動並びに各種事業に対してご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。また組合役職員及び組合員の皆様におかれましても、青年部に対して温かいご支援を承りましたことに、厚く御礼申し上げますとともに、これからもご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

さて、4月の飲用乳価の値上げとなり多少なりとも希望が持てた頃でしたが、10月の台風19号によ

る災害で様々な所で影響があらました。県内でも浸水、停電断水、田畑の被害、デントコーンロールの流出等様々でした。しかし、台風の翌日に地域の酪農家が被害を受けた酪農家の復旧を手伝い、早急に復旧出来たところもあるそうです。我々青年部員も、このように連携を密に取り今後も安心安全な生乳生産に挑んでいきたいと思

います。11月には保育園や小学校において搾乳体験を県内2箇所（矢板市、那須塩原市）行いました。乳牛に触れ多くの小さな子供たちが目を輝かせていました。子供たちの質問や発言に四苦八苦しながら牛のこと牛乳のことを伝えることが出来たのではないかと思います。このように消費者が牛と触れ合う機会を提供し積極的に行動していくことが牛乳の安心安全のアピールにつながるでしょう。

最後になりましたが、本誌読者の皆様のご発展とご多幸をご祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。

新年の挨拶

女性会会長 小林 峰子



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。女性会会員の皆様、組合役職員の皆様には日頃より女性会活動に際しまして格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年新しい年号「令和」となり、本年2020年には東京オリピック・パラリンピックの開催といった歴史に残る大きな出来事があります。本年も輝かしい一年となりますよう心から願っております。

女性会の活動においても皆様のご協力により滞りなく進行してお

ります事を感謝申し上げます。

4月6日酪農まつりでは好天に恵まれ、フランクフルト・焼きそばを完売。「父の日に牛乳を送ろう！」キャンペーンでは、5月29日に栃木県知事を表敬訪問し、県民への牛乳消費拡大の協力をお願いしました。6月2日には県内道の駅・スーパー等で牛乳の試飲及びグッズ等を配布。同月15日「県民の日」には牛乳普及協会が実施したイベントに参加協力をし、来場者に対して牛乳消費拡大PR活動を行いました。

また、12月16日にはホテルエピナール那須において女性会全体研修会を開催し「昨今のアンチミルク的言説を斬る」と題し箸本弘一はしもとひろいち氏にご講演いただきました。

生産者の私たちが牛乳を正しく理解しアンチ論に負けずに、誇りをもって牛乳乳製品の必要性を訴えてまいります。

本年も皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご多幸をご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



東西南北

那須高原支所

支所活動推進協議会講演会開催



講師のJミルク
池上秀二氏

12月4日、那須高原支所において組合員及び関係者を含め約50名が参加し、支所活動推進協議会（藤田一義会長）による講演会が開催されました。

一般社団法人Jミルクマーケティンググループ次長池上秀二氏を講師に迎え「牛乳乳製品に関する食生活動向と健康効果に関する最新情報について」と題し、講演頂きました。講演内容として、初めにJミルクの活動や仕事内容について説明され、その中でも牛乳乳製品に関する食生活動向調査をもとに調査結果を説明していただきました。牛乳類の購入頻度や購入量の調査では牛乳「成分無調整」が伸びてきており、低脂肪・加工

乳等は減少傾向にあり、購入場所においては、スーパーが多かったが、コンビニやドラッグストアでの購入利用が増えてきており牛乳類の飲用・利用頻度は上昇傾向にあります。また、酪農家への共感意識の調査では、「共感する」の人は、全体の約80%で昨年より大きく伸びており、共感理由としては「国産・生産地を意識」「商品パッケージ・生産者表示」が大きな伸びを示しており、北海道・胆振東部地震や店頭での牛乳不足も大きく影響しています。

また、酪農家に対して抱くイメージアンケートの中で『愛情深く大切に飼育されている様子など拝見させていただくとありがたく感謝しなければと改めて感じる』『酪農家の方々の努力のおかげで美味しくて食卓を豊かにしてくれる乳製品を食べることができありがたいの気持ちです』という良いイメージもあります。『どうしても牧場は臭いが気になる』『きちんと衛生管理されているか不安』『以前牧場に行った際に生まれた子牛がオスだと分かった牧場関係者のおじさんが「いい肉になる」ということを口にされて、産んだばかりの親牛の横でよくそんなことが言えるなと絶句した』な

ど抱くイメージも様々ではあるが、酪農体験や牧場訪問・牛乳の消費拡大イベント等で酪農家に「共感する人」は9割を超え、「とても共感する」人は昨年より28%から45%と大幅に増えている調査結果の報告を説明され、牛舎環境や衛生管理・記入記帳の重要性を改めて感じました。

その後、牛乳の健康効果について説明があり「海外では、牛乳の摂取量が多いほどメタボ該当者が少ない」「牛乳・乳製品の摂取はアルツハイマーや認知症の予防に効果あり」「牛乳をよく飲む高齢者は長生き」など牛乳・乳製品を活用した健康長寿社会の達成について説明され有意義な講演会となりました。



支所活動推進協議会 講演会

宇都宮支所

支所協議会全体研修会を開催

12月10日、支所活動推進協議会（松井実会長）主催の研修会が、参加者30名のもと宇都宮支所に於いて開催されました。

初めに松井会長より、先般の台風被害にあわれた方々にお見舞い申し上げ、「日々、飼養管理の徹底を図っていても、足元よりその努力が水泡に帰す災害が、国内のどこかで毎年のように起きており、当地域でも10月の台風19号による被害もあり、何時・何処で何が起こるか想像も出来ないのが現状、それに応じた自分で出来る対応」と研修会の趣旨の挨拶がなされました。



支所活動推進協議会 研修会



今回は「直面する危機管理」災害における自分で出来る対応」をテーマに、まずは「長期停電時における対応」として、(株)エヌデンによる停電に備えた事前準備として電気を取り扱う時の注意事項及び配電盤の設置。次に北越工業株式会社による経営規模及び必要電氣量に応じた発電機の種類等。次にNOSAIとちぎ家畜課長より「万が一被害にあった時の共済と補償内容」。最後に当組合川嶋専務より「組合の被災への対応及び国・県等関係機関との連携」という三部に分かれての研修となりました。

参加された皆様からは、停電における酪農被害への回避と対策、万が一の時の補償について様々な質問が出ておりました。

最後に、災害はないことに越したことはないが、想定外のことが想定内となる昨今において、「転ばぬ先の杖」として備えることは今後の酪農経営の持続に必要なこととであり、有意義な時間を過ごせたとの意見も聞かれました。

県南支所

女性会2支部が東京方面に研修

女性会河内南部・下都賀支部と

芳賀支部では、それぞれ東京方面に日帰り研修をしましたので、ご紹介します。

●豪華絢爛「迎賓館赤坂離宮」を堪能

11月28日、女性会河内南部・下都賀支部（坂本三枝子支部長）では9名参加のもと、秋季研修会として、迎賓館赤坂離宮を見学して参りました。

行きのバスの中では、牛乳に関する学習を行い、「インターバル速歩 牛乳・乳製品の摂取」という日本農業新聞の掲載記事をもとに、運動と牛乳・乳製品の摂取を組み合わせることで、体力向上と生活習慣病の予防が高まることを学びました。和やかに学習しながら、バスは迎賓館赤坂離宮に到着しました。手荷物検査を経て順路に従い館内を進み、歓迎行事や首脳会談・晩餐会等、最高のおもて



迎賓館赤坂離宮にて

なしをする広間”を見学しました。また、正面玄関は真紅の絨毯が引かれ、想像以上に壮麗な空間が広がっておりました。更に、朝日の間をはじめ、彩鸞の間・花鳥の間・羽衣の間（はねのこも）のいずれも、天井画やシャンドリア等が豪華絢爛で、筆舌尽くしがたいものでした。

なお、当日より天皇陛下御即位慶祝行事の「祝賀御列の儀」で使用されたオープンカーが展示され、幸運にも見る事が出来ました。

参加された方々は、館内見学と併せ、記念すべき令和元年ならではの一般公開も見られ、「来て良かった」と感じたことでしょう。

●日生劇場にてミュージカルを観劇

12月10日、女性会芳賀支部（小林峰子支部長）では25名参加のもと、冬季研修会として、日生劇場で上演されている市村正親主演「スクールジューズクリスマスキャロル」を観劇を行いました。

今回の演目は、25年前に初演されて以降6度目の上演となり、実力派ぞろいのキャストと賑やかなダンスシーン、そしてこの時期にぴったりの笑いあり涙ありのストーリーが人気の舞台で、参加者もとても楽しみにしていました。

19世紀半ばのロンドン、市村正

親演じる意地悪でケチな金貸しのスクールジューズが、クリスマススイブの夜に3人のクリスマススの精霊により、過去・現在・未来を見せられ、自分の生き方を見つめなおし、愛ある人間へと変わっていく奇跡のお話です。

舞台を見ていた私たちも、精霊が現れるたびに心に灯がともり、カーテンコールの頃には愛で満ち溢れ、温かな気持ちでいっぱいになっていました。

夕食は、近隣のホテルでおいしいディナーbuffetをいただき、また、行き帰りのバスの中では笑いの絶えない活発な情報交換を行い、身も心も満たされての研修会となりました。



日生劇場にて



部課だより

生乳受託課

令和元年11月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し100.2%（1万8578t）と7月度以来4か月ぶりに前年越えとなりました。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万2179t（前年比100.1%）、宇都宮支所2300t（同97.7%）、県南支所4098t（同101.9%）となり、出荷者数は、前年同月より20戸減の389戸（内、学校は1校）となりました。11月度の組合平均乳質は、脂肪率3.86%（前年差+0.04%）、無脂固形分率8.84%（同+0.03%）、体細胞数21.18万（同▲0.18万）といずれも昨年を上回る好成績となりました。

関東生乳販連の11月総受託乳量は8万1914t（前年比98.0%）と前月より約1ポイント上昇しましたが、29ヶ月連続し前年を下回る状況となりました。

用途別販売数量は、はっ酵乳向けが103.7%と好調を維持しましたが、飲用牛乳向は学乳供給日数の減もあり96.5%に留まり、

脱粉・バター等向けが106%と増加しました。

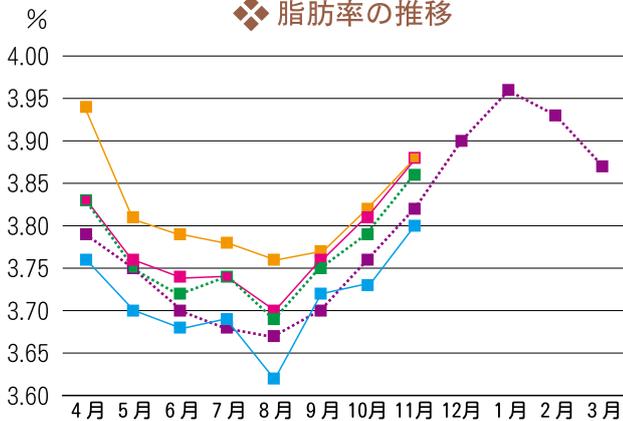
11月の全国の生産量は、北海道が前年比101.8%と9ヶ月連続し前年を上回り、都府県は98.4%と若干の回復傾向となりましたが50ヶ月連続前年割れ、全国の実生産量は100.3%となりました。

尚、令和元年11月の生産量・乳質、関東生乳販連の用途別販売数量は別表のとおりです。

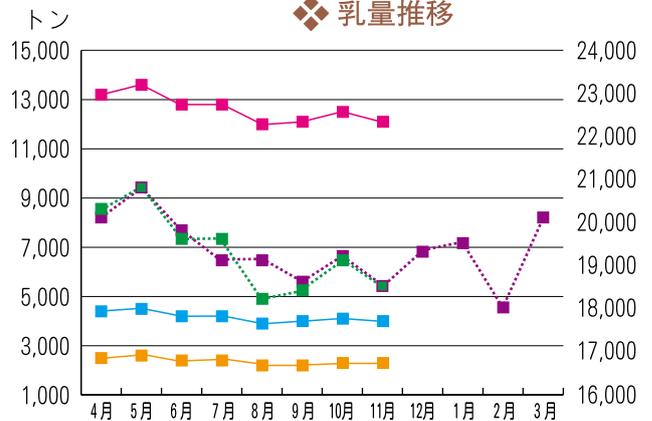
令和元年度 関東生乳販連用途別販売数量 (単位: kg・%)

用途	11月実績	前年同期実績	前年比	11月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け (うち学校向け)	64,608,512	66,920,439	96.5	531,136,094	551,654,756	96.3
はっ酵乳向け	11,814,709	12,423,258	95.1	76,615,138	79,440,284	96.4
脱粉・バター等向け (うち委託加工向け)	12,293,057	11,853,934	103.7	101,583,598	100,836,680	100.7
生クリーム等向け	3,736,674	3,524,497	106.0	39,969,703	41,440,421	96.5
チーズ向け	0	0	-	0	0	-
生クリーム等向け	1,204,071	1,263,837	95.3	9,821,103	11,131,274	88.2
チーズ向け	71,923	65,374	110.0	531,877	533,290	99.7
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	81,914,237	83,628,081	98.0	683,042,375	705,596,421	96.8
脱粉・バター等向け比率	4.56	4.21	-	5.85	5.87	-

◆ 脂肪率の推移

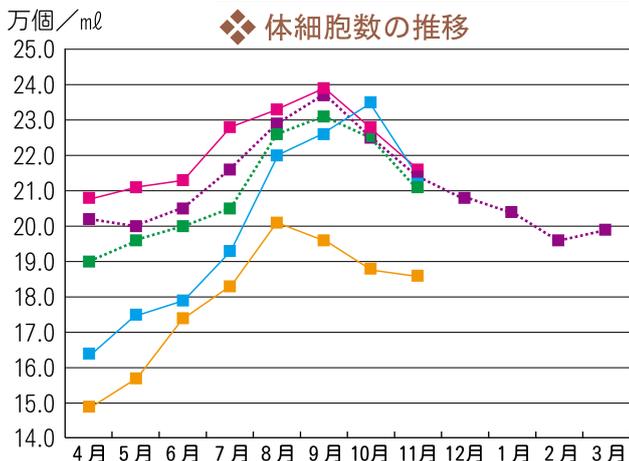


◆ 乳量推移

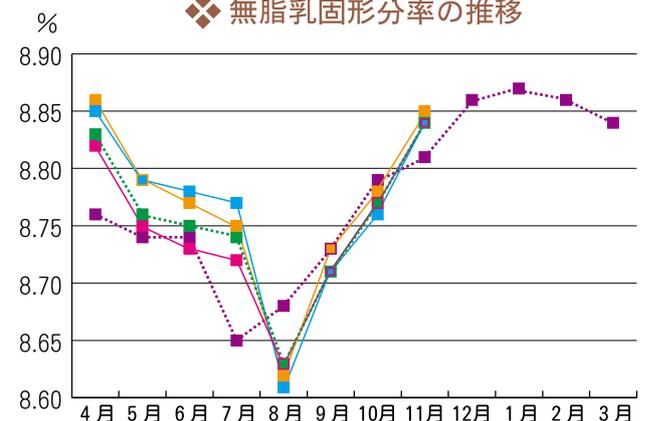


◆ 那須高原 ◆ 宇都宮 ◆ 県南 ◆ 令和元年度 ◆ 平成30年度

◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



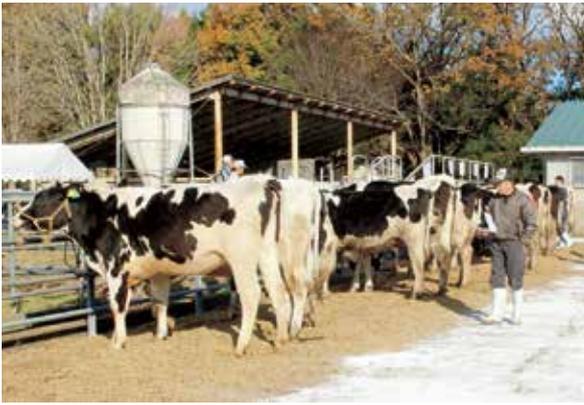
業務部

乳牛展示販売会開催される

11月29日、冷たい風が容赦なく吹き付ける中、毎年恒例の乳牛展示販売会が盛大に開催されました。

本年も組合員の皆様が愛情たっぷり育てた自慢の初妊牛が25頭出品され、販売会々場は購買希望者・当日飛び入り参加者・出品者で大賑わいとなりました。

出品牛の確認後、一頭ずつ希望牛の挙手制にて販売を進めた結果、全出品牛25頭めでたく完売となりました。中には一頭の牛に複数の希望者が殺到し、抽選くじで



出品された自慢の初妊牛

当りを引くとワァッと歓声があがるような盛り上がりとなりました。

当日の出品牛情報は別表の通りとなります。酪農とちぎでは今後も地域の生産基盤維持に向けた取組の一つとして、乳牛展示販売会を続けていきたいと考えております。購入希望・販売希望どちらの方も大歓迎でございますので、これまで乳牛展示販売会にご縁のなかった組合員の皆様におかれましては、是非ご検討いただきませう、よろしくお願います。(来年度も実施する予定です!!)

出品牛情報 (円・税抜)

出場頭数	成立頭数	最高額	最低額	平均価格
25	25	680,000	560,000	625,492



理事会だより

11月度理事会 (11月29日)

報告事項

- (一) 組合員の加入について
 - (二) 業務経過報告について
 - (三) 組合資金貸付について
 - (四) 組合プール乳価について
 - (五) 関東生乳販連情報について
- #### 協議事項
- (一) 10月度事業実績について
 - (二) 令和元年度緊急酪農生産基盤強化対策について
 - (三) 令和元年度配合飼料特別奨励措置について
 - (四) 令和元年度組合購買利用推進女性研修会の実施について
 - (五) 固定資産の取得について
 - (六) 年末手当の支給について

お知らせ

《組合員加入のご案内》

酪農とちぎは、組合員の皆様の力と出資金により運営されております。一口一〇〇〇円の出資から加入可能です。酪農に従事されているご家族の方等の加入を是非ご検討ください。皆様のご加入をお待ち申し上げます。

11月度 ホクレン初妊牛市場成績 (単位: 千円 (税込))

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	(そのうちET牛)		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	11月7日	647	539	83.3%	715	102	88	854
豊富	11月14日	391	309	79.0%	743	6	5	762
釧路	11月19日	351	214	61.0%	690	8	5	819
北見	11月20日	443	327	73.8%	689	15	13	775
根室	11月21日	523	432	82.6%	686	27	23	915
十勝	11月27日	622	532	85.5%	745	72	65	884
合計		2,977	2,353	79.0%	711	230	199	835
前月		3,335	2,193	65.8%	718	309	213	850
前年同月		3,148	2,250	71.5%	850	307	209	1,012

初妊牛の今後の動向は3~4月分娩が中心となります。初妊牛相場は前号以降も低下傾向が続き、平均価格は前月比7千円安となりました。全体として牛による価格差が発生する傾向が強く、スノ物は相場低下・上位クラスは安定相場を維持している状況です。春産み腹中心の出場となり、全体として相場は堅調~やや弱で推移する物と思われま。導入を希望される方は腹条件・分娩月によって手配に時間がかかることも予想されますので、十分余裕をもってのお申込みをよろしくお願い申し上げます。

11月度 県内家畜市場成績 (単位: 円 (税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(11/30)	ホルス雄	149	63	182,600	5,500	109,387	6,985
	F 1雄	133	63	403,700	114,400	262,908	▲24,573
	F 1雌	126	60	280,500	64,900	201,431	▲1,988
館林(11/27)	ホルス雄	0	0	0	0	0	0
	F 1雄	2	100	388,300	367,400	377,850	43,293
	F 1雌	4	91	369,600	269,500	329,725	26,125

今回の初生牛取引価格は前回から比較し、概ねやや弱含みで推移しています。那須市場は九月下旬に付けた年来最安値(F1・雄 252千円)から回復の兆しを見せています。月別の平均価格ではやや値上がり(同9月: 271千円、同11月: 285千円)し、F1雌相場も概ね同様の動きを見せています。例年年末~春前にかけて価格は軟調傾向となる事が多く、概ね横ばい~やや弱含みで推移するものと思われま。館林市場では成立頭数が少なく回ごとに値動きを繰り返しながらも、概ね那須市場と似たような形で推移していくものと思われま。

